

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600143		
法人名	医療法人透現		
事業所名	グループホーム白い石		
所在地	佐賀県杵島郡白石町福吉1808		
自己評価作成日	平成22年11月12日	評価結果市町村受理日	平成23年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成22年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは平屋であり、中庭は広々としていてフェンスの向こう側にはヤギが生活しておりグループで出た野菜くずや果物の皮などを利用者が餌としてやったり、花壇に水をやったりと出来る事をせてもらうことにより、いきいきした生活を送ることが出来ています。職員、利用者が協力して作っている畑は季節の野菜が植えられており、そこで育てたものを食材として食卓に挙げています。外での活動を多く取り入れることにより帰宅願望の強い方も落ち着くことが出来ています。個々に合った生活のパターンを把握し、日課を決めないケアを提供しています。「白い石」独自の『夢かなえプラン』という企画では年に数人ずつ入居者の思いを形にするために家族と協力しながら取り組んでいます。入浴は基本的に毎日入ることが出来ます。その日の気分や体調により自己決定されます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地域にあり、介護老人保健施設ホーム「白い石」に隣接したグループホームである。ホームの前には広い庭があり、大きな樹木や、腰を掛けれる石材などが配置され、庭でゆっくり過ごせる空間が作られている。外気浴など積極的に利用されている。ホーム内は木材の色を生かした落ち着いた雰囲気、リビングは遮るものがなく開放的な作りとなっている。居室はひざの高さの高床の畳敷きで、座ったり、横になったりと自由な姿勢で過ごせるよう作られている。隣接の老人保健施設と緊急時の連携も取れ、安心感がある。職員と入居者は会話を楽しみながら、穏やかな時間を過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「白い石」の理念と共にグループホームの理念に基づいて入居者に対しサービス提供が出来る。職員間で共有し、実践につなげている。	「住み慣れた地域と環境の中で、明るく楽しくほがらかに・ゆっくりのんびりその人らしく」との理念を掲げ、職員は理念を名札の裏に入れ、身近なものとなっている。また、毎週の職員会議や2ヶ月ごとのミーティングで共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接している福祉事業所に買い物に行ったり来てももらったり、近所の魚屋さんに販売に来てもらったり町の図書館にDVDや本を借りに行ったり、託児所の子供たちとの交流をしたりしている。秋祭りの時期になると地域の皆さんが浮立に来て下さる	小学生や、託児所の子どもたちの訪問、秋祭りや地域の浮立など来られ、交流を図っている。近くの図書館へや福祉事業所などへ出かけ地域の社会資源も活用している。	隣接の介護老人保健施設の認知度に比べ、グループホームの地域での認知度が低いようである。地域の清掃行事等に事業所として参加するなど、グループホーム独自の地域との交流活動に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ敷地内に認知症専門棟があり、利用者の家族や地域の方を招いて介護者教室を行っておられ、それに便乗している。グループホーム独自には行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回年6回開催しており毎回テーマを決め参加者に分かりやすく説明し意見を募っている。そこで得た意見、要望を取り入れサービス向上に努めている。	民生委員、区長、行政、家族と各関係者の参加があり、2ヶ月ごとに開催され、要望や意見を聞かれている。運営推進会議の内容は、家族会で報告され、家族との情報共有がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で町の長寿社会課課長に参加して頂いており連絡や報告を行っている。またパンフレットを関連施設に置かせてもらっているためその補充に行く機会があるが、担当者や会う機会が少ない。	町の担当者や、広域介護保険担当者とも随時連絡を取り合い、良好な関係作りが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っておらず、職員も理解している。グループホームの玄関は自由に出入りする事が出来、外にも出ている。しかし、同じ敷地内に老健があるため、共有している門の施錠は安全確保の為やむを得ない。	グループホーム内や玄関の施錠などはなく、入居者は庭を自由に散歩している。身体拘束をしないケアについての勉強会も行い、職員の周知理解を図っている。	敷地の外とつながる門が老人保健施設と共有となっており、施設全体の安全確保から、施錠されている。外へつながる門についても施錠しない方法を検討されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	一人一人が自覚し、お互いに虐待行為が見逃されないように注意し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が介護福祉士の資格取得につとめており、講習会などで学習しているため学んでいるが、きちんと理解し、活用するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結、解約、改訂等の際は今後の事について不安の解消のために十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームにも御意見箱を設けているが直接苦情等を申し出にくい事も想定されるため、併設の老健玄関の御意見箱の活用についても説明行っている。運営推進会議においても家族の参加をお願いしており、それを運営に反映させている。	意見箱は設置しているが利用は無く、家族には何でも直接言ってもらえるような関係を作っている。また、年3回家族会を開催し、家族同士の交流や、自由な意見を取り入れようと取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回職員会議を開きその場で意見を反映させている。また、行事前や、問題が発生した時に随時話し合いを設け意見交換も行っている。	毎週の会議の開催と、時間をかけ話し合える2ヶ月ごとの会議を開催し、職員からの意見や提案を受け検討している。管理者は、職員の話をよく聞く姿勢を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年度初めに各個人の目標を提示している。また、年2回の自己査定と上司の評価を受けている。上司は目標達成が出来るよう就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修についても受けるように進めており出来ている。また、資格取得に関しても推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度、白石町GH協議会の事務局になっており3ヶ月に1度の連絡会の会場にもなっているため、管理者や職員の交流が出来ている。その中で職員同志が学び合う機会が持てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の不安や要望に耳を傾け安心されるよう話し合う機会を設けてより良い関係づくりに努めている。ホーム内で言いづらい要望に関しては外に出たり本人が訴えやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の希望や要望、また不安に思っている事等話し合いの場を出来るだけ多くし家族とのより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合いをし、まずは優先すべき問題を取り入れ支援する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、家庭菜園等、入居者と職員という壁なく協力し合い生活を共にしている。また、入居者が出来ることはして頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的(1か月毎)に家族に最近の様子を手紙に示すと共に面会も呼び掛けている。面会時は家族様と本人だけの時間を持ち深入りしないように努めている。定期の病院受診にも付き添ってもらいその時に情報交換に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の親しい方が来られた時はその時間を大切に職員は立ち入らないよう努めている。また「夢かなえプラン」を実施し、馴染みの場所や人に会うなど関係が途切れないように努めている。	入居者がなかなか行けない所へ行く、「夢かなえプラン」を実施し、馴染みの場所や人と会えるよう支援している。家族の協力を得て、自宅へ帰宅したり、隣接老人保健施設の馴染みの利用者と交流したりと、馴染みの関係の継続支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志でのトラブルを避けるため、席の配置を考えたり、レクリエーションを通じて利用者間でのコミュニケーションが図られるよう介護者は会話の橋渡しを行っている。また、集団の中に入ることに対して無理じいしないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者の家族様が今後の事を相談したり、電話や手紙をくれたりされ、その都度こちらも相談に乗ったり、出向いたりして関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを密にとることにより本人の意向の把握に努めている。上手く伝えられない方に対しては家族とも話し合っている。	したい事をしてもらえるよう、入居者や家族とコミュニケーションを密にとり、入居者の意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にケース記録などで情報を収集したり、家族にこれまでの生活歴や暮らしぶりを聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子をじっくりと観察し本人の潜在能力や、残存機能などを見極め好まれることを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをとり、出来ることを中心に考えプランを立てている。3ヶ月に1回の評価見直しを行い必要時にも随時行っている。	3ヶ月に1回、また必要時には随時評価し、各関係者と担当者会議を開き、入居者の状況に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤夜勤とも経過記録に分かりやすく残している。また、申し送りや伝達報告などで情報を共有している。現時点での介護計画では難しい場合カンファレンスを緊急に開き介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の図書館興味のある本を貸りに行ったり、託児所との交流、近くの小学校とのふれあいなどを行い、毎日の生活にうるおいを与えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族対応であるが、必要時は職員が付き添い必要な情報を主治医に提供して適切な医療が受けられるように支援している。	受診は基本的に家族対応で、かかりつけ医との受診を支援し、必要時は職員が受診の付き添いや、情報を主治医へ伝え、適切な医療が受けられるよう家族との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションや併設している老健の看護職員と常時連携体制が出来ており、定期的な訪問や適切なアドバイスを受けている。状態変化の時にはすぐに対応出来る体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合も定期的に状態を観察に行ったり電話での連絡を取りながら退院後の事について病院側とのコンタクトを取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が悪化した時には家族等と今後についての話し合いをし、併設の老健施設への転移や病院への紹介など、ある程度の道筋をつけて家族の不安解消に努めている。その場合には主治医やホーム職員にも情報提供し、方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針は、契約時に家族等に説明を行なっている。現在、看取りは行なっていないが、できる限りの所まで支援し、病院など協力機関へ繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、定期的に応急手当や救急医療の講習を受けて知識を得ている。事故発生時の通報マニュアルは職員全員が把握しており確認もできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設施設と合同で昼夜想定のもとで避難訓練を実施している。地域にも事業所の認知をしてもらうため、運営推進会議で取り上げ協力をお願いしている。	災害マニュアルを作成し、併設施設と合同で、火災避難訓練を実施している。今後、地域の消防団と連携も検討している。	水害等の想定はされておらず、地域の消防団等と連携した、災害訓練の実施に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方であり言葉づかいには十分配慮行ない言葉掛けを行っている。誇りやプライバシーを損ねることがないよう職員同志で注意し合っている。	否定しないことを心掛け、声掛けしている。排泄時等も、羞恥心に配慮したさりげない対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人が何を望んでいるのかを引き出している。朝の着替え時に洋服を選んでもらったりなにを食べたいのかなど自己決定の場面をつくっている。入浴もその1つである。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には本人の体調やその日の気分によって1日を過ごしてもらっている。したい事、出来ることを優先し、無理じいしないよう希望に沿う事が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事、TPOに合った身だしなみの支援をしている。また、自分で化粧などすることにより笑顔が出たり、好きな口紅の色を選んだりと楽しみが増えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みは把握している。出来ることは一緒にしてもらい食事作りに協力してもらっている。また、畑と一緒に作っているのでそこで収穫した野菜をそろえてもらったり皮をむいたりと楽しみに繋がっている。	食事の下ごしらえや、野菜の皮むきなど、入居者の能力に応じ、会話を楽しみながら、食事の準備をしている。誕生会では好きなメニューを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	魚、野菜を中心にした食事を提供している。水分は1日の中で必ず補給する時間を決めており言葉掛けにより摂取できている。食事の量が少ない場合は間食をしたりチェック表により食事量を把握して対策を講じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの言葉掛け行い見守りにて実践している。個々に応じた対策により困難な方には介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じた排泄介助行っており、全員がトイレで排泄する事が出来ている。排泄パターンを把握する事により必要に応じた援助が出来ている。	排泄チェック表などで、個々の排泄のパターンを把握し、個々の状況に合わせたトイレ誘導がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についてはチェック表にて排便間隔を把握している。また、服薬や、食事内容、食事量、水分量などを確認し予防に努めている。便秘が続く場合は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては個々の希望に合った時間に提供したいが、今の所午後に提供している。入浴も臨機応変に対応出来ており、体調やその日の気分も配慮している。	毎日入浴を実施している。日々の入居者の希望に沿い、入浴の順番などを決めている。その日の体調により清拭を実施するなど、入居者の状態に沿った支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不穏者や、睡眠が十分に取れていない方には日中休んでもらったり夜間早目の就寝促している。天気の良い日は布団を干して気持ち良く寝られる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬のデータをファイルしており情報を共有しているが副作用まで理解しているとはいえない。服薬に関してはミスがないよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や能力、希望等を活かした支援に取り組んでいる。食事の準備や片付け、庭の掃き掃除、パズル、編み物、縫物、囲碁、将棋、塗り絵などなど楽しみの時間が持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に帰宅願望が強い方や、買い物をしたい方には気分転換を兼ねドライブをしたり買い物に出かけたりしている。また、定期的にバスハイクを取り入れている。「夢かなえプラン」では個人の普段いけない所や、したい事などをかなえ家族の協力のもと職員と共に行っている。	ホーム前の庭や、隣りの福祉事業所の販売所への散歩など、日常的な外出支援がなされている。「夢かなえプラン」では、入居者の希望に応じ、墓参りや炭釜めぐりなど、普段は行けない場所への支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方は個人の持ち分で使用して頂いている。困難な方はグループホームで管理し、出かける時や必要な時に職員と一緒に購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や要望があった時、電話を取り次いだり、届いた手紙は手渡している。要望がある場合は代読したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内は採光が良く明るくて気持ちの良い環境である。玄関やホール棚などに季節の花が飾られている。玄関の外には小さな花壇が作られ、利用者は日向ぼっこをしながら眺められている。食事の準備の時には食堂の周りでくつろがれ料理のにおいや音が伝わり生活感が漂っている。	季節の花を飾り季節感を出し、温度・湿度計を設置し、適切な室温、湿度管理をしている。また、入居者のトイレ後は、すぐに掃除・換気をし、臭いと感染の防止に努め、快適で、居心地よい共用空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや談話室を設けており、ホームの随所には椅子をおいており一人でゆっくりしたり、気の合った仲間同士がくつろいだり出来る。北側は畑や風景を見る場所に適している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は段差を設け畳敷きとなっている。入居者や家族とも相談し、馴染みの品物や使い慣れたテーブル、座布団、タンス等が持ち込まれ安心出来る環境作りに努めている。	居室は高床の畳敷きで、入居者は布団をひいて休まっている。広い畳敷きで、入居者はおもい思いの姿勢で過ごされている。馴染みや使い慣れたものを持ち込まれるよう配慮し、安心できる居室作りの支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム内は床に段差がなく、家庭では歩けなかった方も押し車にて、歩行や移動が出来ている。居室も引き戸になっており出入りしやすい。各居室に洗面台もあり個々の生活のペースを尊重している。		